

学力を身につけるために
－「学習の3段階理論」とは－

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：学校の定期テストで100点を取ったり、進学を希望する学校の入学試験や資格試験・国家試験などで合格点を取ったり、社会で生活するのに役に立つ「学力」を身につけるには、どのような勉強の仕方をしたらよいのですか。

A：(林明夫。以下省略)いろいろな学び方があると思います。開倫塾でお勧めするのは、学習を「理解」、「定着」、「応用」の「3段階」に分けて、各段階にふさわしい勉強をすることです。開倫塾では、これを「学習の3段階理論」と名付けました。一生役に立つ学び方ですので、「人生の成功」のために、開倫塾に在籍する間に正確に身につけることを希望します。

学力を身につけるには、「読書による熟慮・熟考・省察・自省する能力」と、「学び方を学ぶ能力」が欠かせません。「学習の3段階理論」は、「学び方を学ぶ能力」を身につける上で役立つと考えます。

Q：第1段階の「理解」とは何ですか。

A：「理解」とは、「うんなるほどとよくわかる、納得する、腑(ふ)に落ちること」です。

(1)「理解」は、学校や開倫塾などの「授業」でもできますが、一人で学ぶ「自習」でも可能です。

(2)そこで大切なのが、「授業」の受け方、参加の仕方と、「自習」の方法です。

①「授業」中は、姿勢を正し、手を机の上に置き、先生の目を見ながら、まずはしっかりと先生のお話をお聴きしましょう。また、先生の指示に従い、授業中の活動に積極的に参加しましょう。

②必要なことは、どんどんノートにメモを取り続けましょう。(授業が終わった後、勉強しやすいように「ノート整理」をすることも大切です。)

*「ノート整理」の仕方も身につけましょう。

③授業の「欠席、遅刻、早退」や、授業中の「忘れ物、私語・おしゃべり、居眠り、ボーッとしていること、携帯電話、徘徊(はいかい)」などがなぜよくないのか考えたことがありますか。それは、「理解」の妨げとなるからです。折角、先生が皆様によい授業をしようとは時間もかけて準備をしても、皆様が教室に存在しなかったり、存在しても気持ちが授業に集中していなければ、また、忘れ物があれば、「理解」の妨げになります。「うんなるほどとよくわかる」ことの妨げになります。授業には、積極的に参加して下さいね。

Q：よくわからないところを友達に聞くのは、よいことなのか。

A：「これはどういうこと」「これはどんな意味」と気軽に友達に聞いたり、「これはこういうことかもしれないよ」と教え合うことは素晴らしいことです。よくわかっている人は、友達に教えることでさらに学力が「定着」し、よくわからない人は、「理解」ができるからです。皆様も、このような「学びの共同体」を毎日5分間でもよいですから作ってみましょうね。

Q：第2段階の「定着」とは何ですか。

A：「定着」とは、一度「うんなるほど」と「理解」したことを身につけることです。「定着」には、3つの内容があります。

(1)「定着」の第1は、一度「うんなるほど」と「理解」したことを、何も見ないでスラスラ口について言えるまでになることです。つまり、「暗誦(あんしょう)・暗唱(あんしょう)」です。

「暗誦・暗唱」ができるようになるために一番よい方法は、「声を出して読むこと」、つまり「音読」です。何十回、何百回も「音読練習」することをお勧めします。

(2)「定着」の第2は、一度「うんなるほど」と「理解」したことを、何も見ないで正確に楷書(かいしょ)で書けるまでにするということです。そのための最も効果的な方法は、「書き取り」です。そこで、何回も、何十回も書いて覚えること、つまり、「書き取り練習」をお勧めします。

(3)「定着」の第3は、一度「うんなるほど」となぜそのような答えになるかが十分に「理解」できた「計算」や「問題」は、その「計算」や「問題」を見た瞬間にパツパツと条件反射で正解が出るまでにするということです。そのためには、一度やった問題を何回も、何回もやり直すこと、つまり「計算練習」や「問題練習」が大切です。「計算・問題練習」をお勧めします。

<p>*開倫塾では、この「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」を「定着のための3大練習」と呼び、皆様にお勧めしています。</p>
--

Q：第3段階の「応用」とは何ですか。

A：「応用」とは、「理解」、「定着」させたことを用いて、①学校の定期テストで100点満点が取れること、②入学を希望する学校の入学試験などで合格点が取れること、③社会で役に立てることです。

(1)学校の定期テストで100点を取るには、まずは学校や開倫塾の授業にしっかりと取り組み、「理解」をする。次に「定着のための3大練習」を徹底的に行い、「定着」を図ればOKです。試験範囲をよく「理解」した上で、「完全丸暗記」することです。

(2)入試等で合格点を取るには、その試験で「過去に出題された問題(過去問、かこもん)」を5~10年分実際に解いてみる。同じ年度の過去問を5~6回やり直すことが大切です。そして、間違えた答えについてなぜ答えを間違ったのか、その原因を自分で分析することです。これを、開倫塾では「誤答分析(ごとうぶんせき)」と呼んでいます。

(3)「応用」の第3は、生涯にわたり社会での生活や活動に役立てること。これが、学習の最終目標と考えます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：学力を身につけるためには、「新聞を含む読書」により、「熟慮、熟考、省察、自省する能力」と「批判的思考能力」を身につけることが重要です。これぞという本は、5～6回熟読しましょう。

そして何よりも「学び方を学ぶ」能力、英語で言うと「Learning To Learn(ラーニング・トゥ・ラーン)」の能力を身につけることです。

勉強は社会に出てからが本番です。自分なりの学習方法を少しずつでも身につけて、生涯にわたって自分の能力を強化し続けることが「人生の成功」、「多様な選択肢のある人生」を歩む上で大切かと考えます。

皆様は、どのようにお考えになりますか。

－ 2009年5月17日記－